

204 イエスの復活(2) He Is Risen

福音の三要素① 福音の三要素② 福音の三要素③
<金曜日深夜:逮捕→午前9時:磔刑→正午:暗闇→午後3時:死→日没前午後6時:埋葬→安息日→復活>

ペトロとヨハネが去った後も、マグダラのマリアは墓に残っていた・・・・・・・・

イエス、一回目の現れ→イエス、マグダラのマリアの前に現れる

▶イエス、マグダラのマリアに現れる (ヨハネによる福音書 20 : 11~17)

11 (ペトロとヨハネが去った後も) マリアは墓の外に立って泣いていた。

泣きながら身をかがめて墓の中を見ると、12 イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見えた。一人は(イエスの遺体の遺体があった)頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。

・・・マリアは気が動転し、今、目の前で何が起こっているのか、理解できなかった・・・

13 天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、

マリアは言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」

14 (マリアは) こう言いながら (人の気配を感じ、) 後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、(マリアには) それがイエスだとは分からなかった。

15 イエスは (マリアに) 言われた。

「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」

マリアは、(イエスのことを、十字架につけられた所にある園→ヨハネ 19 : 41-の園ゲツセマネだと思って言った。

「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」

→園丁：庭の管理人、造園を職業とする人、草木の手入れや清掃などをする人

16 イエスが、「マリア」と言われると、(マリアは初めてこの方がイエスだと分かった。と、同時に、)

彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」(→Rabboni、わたしの師)と言った。「先生」という意味である。

→ラボニ Rabboni(大いなる師、偉大な先生) > ラボ

旧約聖書の中で最大の認識場面 (創世記 45 : 1~3)

ヨセフは、そばで仕えている者の前で、もはや平静を装っていることができなくなり、「みんな、ここから出て行ってくれ」と叫んだ。だれもそばにいなくなってから、ヨセフは兄弟たちに自分の身を明かした。ヨセフは、声をあげて泣いたので、エジプト人はそれを聞き、ファラオの宮廷にも伝わった。ヨセフは、兄弟たちに言った。「わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか。」兄弟たちはヨセフの前で驚きのあまり、答えることができなかった。

新約聖書が示す認識の様子 (ヨハネによる福音書 10 : 2~4)

門から入る者が羊飼いである。門番は羊飼いには門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているので、ついて行く。

17 (喜びのあまり、マリアがイエスにすがろうとすると、) イエスは (マリアに命じて) 言われた。
「**①わたしにすがりつくのはよしなさい。** (その理由は、) **まだ父のもとへ上っていないのだから。**
→すがりつかれることで体が汚れるからである (神のもとに上って行くには、汚れてはいけない)。

②わたしの兄弟 (→友から兄弟に親密度—兄弟姉妹>友>僕—が変わっている) **たちのところへ行って、こう言いなさい。**『**わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る**』と。→ **神 (父) ⇔ イエス・キリスト ⇔ 信者**
→リビング・バイブル:「待ちなさい。すがりつくのはやめなさい。わたしはまだ父のもとに上っていないのですから。それよりも、してほしいことがあります。行ってわたしの兄弟たちに、『わたしは、わたしの父、またあなたがたの父であり、わたしの神、またあなたがたの神である方のもとに上って行く』と伝えてほしいのです。」

→ヨハネによる福音書 15 : 15 . . .最後の晩餐において . . .

もはや、わたしはあなたがたを**僕**とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを**友**と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。

18 (イエスに命じられ、使徒たちへの使徒となった) マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「**わたしは主を見ました**」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。

→マグダラのマリアは、死から復活したイエスを誰よりも早く見た人物である。

▶復活する (ルカによる福音書 24 : 11)

11 使徒たちは、この話が**たわ言** (→戯言:ばかげたことば、ふざけた話、無意味な言葉 nonsense) のように思われたので、婦人たちを信じなかった (→当時のユダヤ社会における女性軽視の姿)。

しかし、ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞくと、亜麻布しかなかったので、この出来事に驚きながら家に帰った。

イエス、二回目の現れ→イエス、マグダラのマリア以外の婦人たちの前に現れる

▶復活する (マタイによる福音書 28 : 9~10)

. . .イエスがマグダラのマリアの前に現れた後のことである . . .

09 すると、イエスが行く手に立っていて、「**おはよう**」 (→NIV:“Greetings,”/NKJV:“Rejoice!”、ギリシア語では、「カイロウ」[動詞の命令形]が使われ、「喜びなさい」=rejoice という意味である) と言われたので、婦人たち (→マグダラのマリア以外) は近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。

→回復訳:すると見よ、イエスが彼女たちに出会って、「**喜びなさい!**」と言われた。彼女たちは来て、彼の足を抱き、彼を拝した。

→婦人たち { マタイ 28 : 1=マグダラのマリアともう一人のマリア
 マルコ 16 : 1=マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメ
 ヨハネ 20 : 1=マグダラのマリア

→[参考]喜びなさい:マタ 5 : 12、ルカ 10 : 20、Ⅱコリ 13 : 11、フィリピ 2 : 18、3 : 1、4 : 4、Ⅰペト 4 : 13→ (フィリピの信徒への手紙 4 : 4) 主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。

自分の非力な力だけではどうすることもできない絶望の状態から、
立ち上がることが出来る力は、
生ける神が私たちの心の中に内住しておられるという信仰心から与えられる。

10 イエスは (婦人たちに命じて) 言われた。

「**恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。**」

【参考】 ガリラヤへ(ガリラヤに)

タイトル(書名)	章:節 聖句	〔検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250 <ガリラヤへ>4個 <ガリラヤに>1個〕 (新共同訳) [検索語彙 : ガリラヤへ・ガリラヤに]
S マタイによる福音書	26:32	しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」
S マタイによる福音書	28:7	それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなたがたに伝えました。」
S マタイによる福音書	28:10	イエスは言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」
S マルコによる福音書	14:28	しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」
S マルコによる福音書	16:7	さあ、行って、弟子たちとベトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」

【参考】 聖書に登場する天使

タイトル(書名)	章:節 聖句	〔検索対象総数 : 7 / 聖句等の総数 33250 〕
K ダニエル書	10:13	ペルシア王国の天使長が二十一日間わたしに抵抗したが、大天使長のひとりミカエルが助けに来てくれたので、わたしはペルシアの王たちのところにいる必要がなくなった。
K ダニエル書	10:21	しかし、真理の書に記されていることをお前に教えよう。お前たちの天使長ミカエルのほかに、これらに対してわたしを助ける者はないのだ。
K ダニエル書	12:1	その時、大天使長ミカエルが立つ。彼はお前の民の子らを守護する。その時まで、苦難が続く／国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が。しかし、その時には救われるであろう／お前の民、あの書に記された人々は。
S ルカによる福音書	1:19	天使は答えた。「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。あなたに話しかけて、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのである。」
S ルカによる福音書	1:26	六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。
S ユダの手紙	1:9	大天使ミカエルは、モーセの遺体のことで悪魔と言い争ったとき、あえてののしって相手を裁こうとはせず、「主がお前を懲らしめてくださるように」と言いました。
S ヨハネの黙示録	12:7	さて、天で戦いが起こった。ミカエルとその使いたちが、竜に戦いを挑んだのである。竜とその使いたちも応戦したが、

④聖書に登場する「セラフィム」(イザヤ書 6 : 2、6 の 2 か所)、「ケルビム」(90 回、67 聖句に登場する)は、天使の位階を示すもので、名前(固有名)ではない。

また、聖書の外典(⇨正典 : 旧約聖書 39 巻、新約聖書 27 巻)や第二正典(旧約聖書の中でカトリック教会が正典とする聖書で、プロテスタントでは外典、偽典としている)のトビト書には天使「ラファエル」が登場している。

「天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する人のために戦う者である。」

フローレンス・ナイチンゲール

【参考】 聖書から見た過越祭と除酵祭、そしてイエス・キリストの磔刑

ニサンの月

第一の月の十四日の夕暮れが主の過越である。同じ月の十五日は主の除酵祭である。(レビ記23:5~8)

⑧聖書記述通りの図表示

十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日
夜 昼	夜 昼	夜 昼	夜 昼	夜 昼	夜 昼	夜 昼	夜 昼	夜 昼	夜 昼	夜 昼	夜 昼

10日: 小羊を一匹用意する(出エジプト12:3)

● 14日夕暮れ: 小羊を屠り、その血を二本の柱と鴨居に塗る(出エジプト12:6~7)

15日夜: 小羊の肉を火で焼き食べる(出エジプト12:8)
 過越祭: 主の過越し(出エジプト12:11, 12)

十四日夕方

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

除酵祭: 七日の間(十四日夕方から二十一日の夕方まで)
 酵母を入れないパンを食べる(出エジプト12:15, 12:18)

金	土(安息日)	日
夜 昼	夜 昼	夜 昼

緑: 過越祭→

最後の晩餐→ ● 除酵祭の第一日、過越の小羊を屠る日(マタイ26:17, マルコ14:12, ルカ22:7, 8)

キリストの磔刑→ ● キリスト復活→ ●

【参考】 大贖罪日(=ヨム・キプール、ティシュリの月 10日)における大祭司の務め

太陽暦・ユダヤ暦・バビロニア暦

太陽暦	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月(ヘブライ暦)	第一の月	第二の月	第三の月	第四の月	第五の月	第六の月	第七の月	第八の月	第九の月	第十の月	第十一の月	第十二の月	
ユダヤ暦	ニサン Nisan, Nissan	イヤール Iyyar	シバン Sivan, Sivan	タムズ Tammuz	アブ Abh, Av	エルール Elul	ティシュリ Tishri	マルヘ シュバン Marcheshvan	キスレウ Kislev, Kislev	テベツ T'ebeth	シュバツ Shevat	アダ Adar, Adar	
バビロニアの月名 (): カナンの古称	ニサン (アビブ)	イヤール (ジウ)	シワン	タンムズ	アブ	エルル	ティシュリ (エタニム)	ヘシュワン (ブ)	キスレウ	テベツ	シェバツ	アダ	
主な行事	←←← 七週間 →→→		七週祭(シャブオツ) 新月 五旬祭(ペンテコステ Pentecoste ギリシア語)					1: 新年 10: 大贖罪日 15~21: 仮庵祭(スコツ) 満月		25: 宮清めの祭 (ハヌカの祭り) (25日~8日間)			
	14~21 過越祭(ベサハ) 満月 除酵祭		※ユダヤの三大祭: 過越祭、七週祭、仮庵祭					①イエス・キリストが過越祭の時に、子羊として十字架にかけられ、殺された。 ②三日目によみがえられた。→復活祭					

大祭司だけが、主の前に出て民の罪を贖うことができた。大祭司は、イスラエルの人々のすべての罪による汚れと背きのゆえに、至聖所のために贖いの儀式を行った。しかし大祭司だからといって、いつでも至聖所に入ることは許されなかった。神は年に1度、つまり、大贖罪日(ヨム・キプール)にだけ、大祭司が至聖所に入れることを定められた。

至聖所に入るときは、まず、全イスラエルの贖罪の献げ物として若い雄牛一頭、焼き尽くす献げ物として雄羊一匹を用意する(レビ記16:3)。



- ①大祭司の衣装(左図)を脱ぐ。
- ②水で体を洗った後、贖罪の日の衣装(聖別した亜麻布の長い服)を着る。→レビ記16:4
- ③贖いの蓋に山羊の血を振りかける等の決められた贖いの儀式を行う。→レビ記16:5~22
- ④亜麻布の長い服を脱ぎ、聖域で身を洗い、大祭司の衣装に着替える。→レビ記16:23, 24
- ⑤最後の贖いの儀式を行う。→レビ記16:24~28

【参考】 イエスの十字架から聖霊降臨まで

マタイによる福音書	16:21 このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。
マタイによる福音書	17:23 そして殺されるが、三日目に復活する。」弟子たちは非常に悲しんだ。
マタイによる福音書	20:19 異邦人に引き渡す。人の子を侮辱し、鞭打ち、十字架につけるためである。そして、人の子は三日目に復活する。」 (→ローマ人)
マタイによる福音書	27:64 ですから、三日目まで墓を見張るように命令してください。そうでないと、弟子たちが来て死体を盗み出し、『イエスは死者の中から復活した』などと民衆に言いふらすかもしれません。そうすると、人々は前よりもひどく惑わされることになります。」
ルカによる福音書	9:22 次のように言われた。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」 ※1
ルカによる福音書	18:33 彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復活する。」
ルカによる福音書	24:7 人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」
ルカによる福音書	24:46 言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。』
使徒言行録	1:3 イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。
使徒言行録	1:9 こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。
使徒言行録	2:1 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、 (→過越祭から50日後に行われるユダヤ人の祭りで、小麦の収穫を祝うことから収穫祭とも呼ばれる。)
使徒言行録	2:2 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。
使徒言行録	2:3 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。
使徒言行録	2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。
使徒言行録	10:40 神はこのイエスを三日目に復活させ、人々の前に現してくださいました。
コリント信徒への手紙 I	15:4 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、



1	2	3 日目	1	2	...	39	40 日目	1	2	...	9	10 日目
金	土	日	月	火	...	木	金	土	日	...	日	月
3			40					10				

※1:古代ユダヤ社会において、長老は経済的に余裕を持った年配者で、祭司長と密接な関係を持ち、指導者の立場にあった。彼らはローマ帝国よりユダヤ人の地元の問題を取り決める権利を付与され、議会(最高法院、サンヘドリン)を結成していた。律法学者はユダヤ教の学者で、律法を研究し、その教えに沿っていかに生きるかを説いていた。祭司長は神殿の中での祭儀、財政、警察を担当し、最高法院の中枢にあたる者である。